

## (2) 気候

スリランカは、日本とちがいで、はっきりとした春・夏・秋・冬のちがいがありません。一部の地域をのぞけば、一年中日本の夏のような暑い気候です。このような気候を熱帯性気候といいます。

もう少し詳しく分類すると、スリランカはおよそ3つの気候帯に分けることができます。

コロンボを中心にした、南西ウエットゾーン（しめった地域）、北部と東部地域の平野部を中心にしたドライゾーン（乾燥した地域）、ヌワラエリヤ近くの高原地帯の3つです。

ウエットゾーンでは、年に2回、5月ごろと11月ごろに吹くモンスーン（季節風）が多く、雨を降らせません（熱帯雨林気候）。この雨によって稲、ココナッツ、ゴムなどのスリランカの重要な作物が多く作られています。

ドライゾーンは、雨の少ない地域です。王様の治めていた時代、水に困った人々により雨水をためておくタンク（人造湖）がたくさん造られました。1970年からは、「マハウエリ開発計画」という、この地域をかんがいする仕事、日本をはじめとする外国からの協力で進められ、いくつものダムが造られました。

ヌワラエリヤを中心とした高原地帯は、一年中涼しく、夕方からは暖炉で薪も燃やされるほどです。

かんがい・・・農作物の栽培のために、人工的に田畑に水をそそぐこと。河川や湖、ため池などから水路を引いたり、スプリンクラーによって水をまいたりする。

# スリランカの気候

